
歴史的分野 研究提案

歴史的分野における基本的な考え

これまで人々は、封建社会における身分制度や近代社会における国際関係など、それぞれの時代において「共生社会」の実現を阻む様々な制約の中で生きてきた。しかし、直面する多くの問題に対して、立場や考え方の違いがあっても、それぞれの考えを出し合いながら社会に働きかけることで、問題の解決を図ってきた。そして、現代においては、共生社会の実現を目指して、互いの立場や考え方の違いを乗り越えて、共に生きる社会を創り出そうとする共創が求められるようになった。

こうした中、歴史的分野の学習を通じて共創を育むためには、価値葛藤にゆれながらも問題解決に取り組んだ先人の生き方から共創を見出すような学習を工夫することが大切であると考え。なぜなら歴史的な事象の中に共生社会が実現された様相を見出すことは困難だが、中世において自治を獲得していった農民や、諸改革により近代国家を形成していった明治政府など、立場や考え方の違いを乗り越えて問題解決に取り組んだ人々の営みの中から、その時代における共創を探ることは可能だからである。

そこで、共創を育む歴史的分野の授業として、各時代における制約に身を置いて、当時の人々が挑んだ問題に対し、様々な見方や考え方を認め合いながら、解決方法を考えさせる授業を展開したい。その際、先人の思いや願いに切実感をもって迫り、各時代の制約の中で問題解決に取り組み、時代の変化を生んだ先人の先見性や、生活の向上をめざしてよりよい社会を実現しようとした営みを、その時代における共創としてとらえさせていく。

こうした考えに基づいた授業を繰り返し行うことによって、共生社会を志向してきた先人の足跡を学びながら今を見つめさせ、よりよい社会を実現しようとした先人の思いや願いを基にしながら、将来にわたって自分の生き方を問い続ける生徒が育成できると考える。

歴史的分野における授業づくり

1 教材化の要件

【要件1】 自然や社会とのかかわりがとらえやすい

自然との調和を図りながら生産技術を高めたり、社会全体を発展させながら生活を向上させたりしたような事象を教材化する。その中で、その時代において人々の生活・生産活動に影響を及ぼした自然環境や、身分制度・税制などの社会のしくみに着目させ、そのあり方をめぐって生じた問題を取り上げる。

【要件2】 人間の生き方とのつながりが追究しやすい

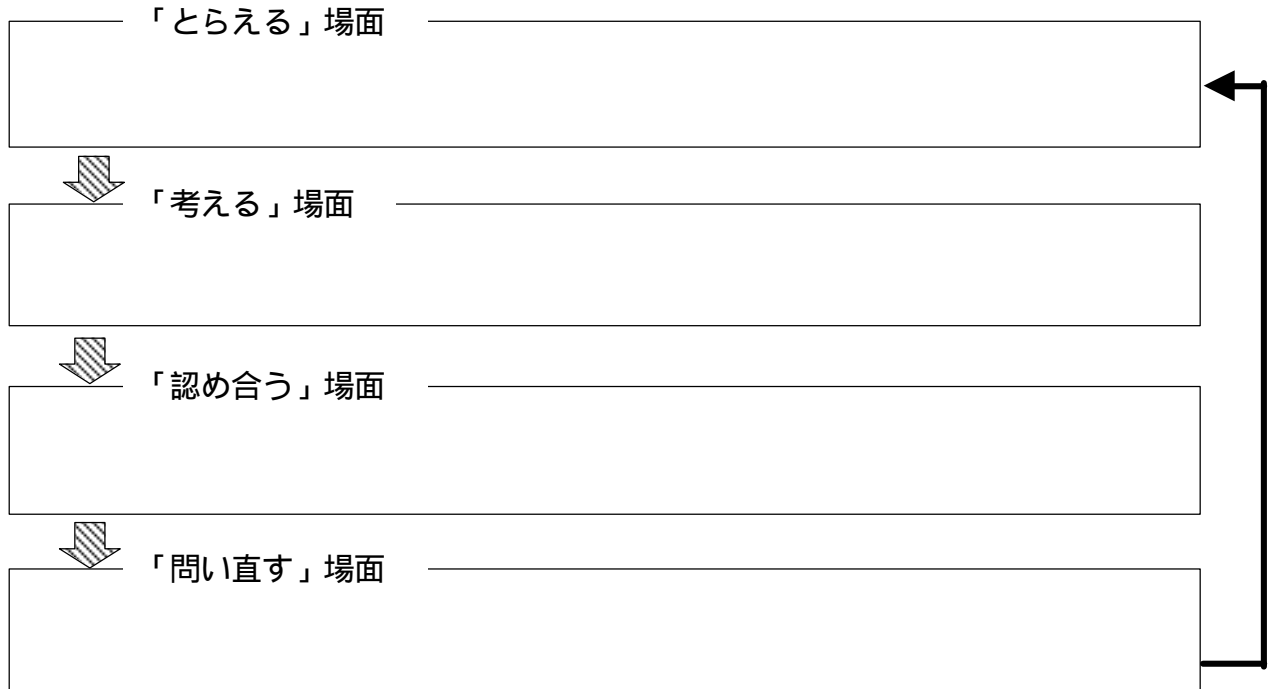
それぞれの時代における制約の中で、問題解決に取り組み、時代の変化を生んだ先人の先見性や、よりよい社会を実現しようとした営みをとらえることができるような事象を教材化する。その中で、立場や考え方の違いを乗り越えて問題解決に取り組んだ人々の姿を取り上げる。

【要件3】 見方や考え方、思いや願いがゆさぶられやすい

問題解決に取り組んだ人々が葛藤する場面に直面させながら、当時の人々の思いや願いを踏まえた解決方法を探ることができるような事象を教材化する。その中で、歴史上の重大な選択や決断を迫られる場面において、立場や考え方の違いによって対立が顕著となる事例を取り上げる。

2 歴史的分野における単元構成

歴史的分野の学習では、それぞれの時代における制約に身を置きながら、先人の生き方から共創を見出し、よりよい社会を実現させようと生きた先人の思いや願いを基に、将来にわたり自分の生き方を問い続ける生徒を育成する。そのために、次のような「とらえる」「考える」「認め合う」「問い直す」の4場面から成る単元を構成し、各授業を展開する。



3 「認め合う」場面と「問い直す」場面における学習活動の工夫

(1) 合意形成を図る話し合い活動の工夫（「認め合う」場面）

それぞれの時代における制約の中で、問題解決にあたった人々が葛藤する状況をとらえさせ、生徒に切実感をもって問題解決の方法を考えさせる。そして、考えの異なる生徒同士が合意に向けて解決の道筋を探ることができるようにする。そのために、次のような話し合い活動の工夫をする。

歴史上の重大な選択や決断を迫られる場面において、シミュレーション学習（模擬会議やロールプレイング）を行い、グループや学級としての望ましい解決方法を導き出すような話し合い活動

「それぞれの考えの対立点を明確にする 問題解決に必要な共通する思いをつかむ 合意に向けての条件を出し合う」という段階を踏んだ話し合い活動

(2) 共に生きる社会のあり方を考え続ける学習活動の工夫（「問い直す」場面）

シミュレーション学習で合意に向けて話し合った内容を、歴史上の事実と照らし合わせることで、問題の解決に当たった先人の思いや願いをとらえさせ、よりよい社会の実現に向けてどのように行動すればよかったのかを考えさせる。そして、時代の制約の中で問題解決に取り組み、時代の変化を生んだ先人の先見性や、よりよい社会を実現しようとした営みをとらえさせ、先人について学んだことを生かしながら、よりよい社会の実現に向けて自分の生き方を見直すことができるようにする。そのために、次のような学習活動を取り入れる。

歴史上の事実を基に、人物の行動や決断を評価する学習活動

先人の生き方を基に、自分の生き方を表明する学習活動

1 単元 武家政治の始まり

2 単元について

鎌倉幕府が成立し、武士による政治支配のしくみが完成したものの、京都を中心とする西日本では朝廷や院の勢力が依然として強く、世の中はいわゆる公武二重支配の社会であった。それが、承久の乱を一つの契機として、幕府支配が西日本にまで及ぶとともに、武士の勢力が大きくなっていく。

本単元では、承久の乱と山田重忠を取り上げ、戦いの結果、幕府支配が広がっていく様子や、当時の武士が重んじていたものを、戦いにかかわった一人の人物の生き方を通してとらえさせたい。

3 本単元で扱う教材

(1) 教材 承久の乱と山田重忠

(2) 教材の意義

鎌倉時代当時、山田重忠は幕府から尾張の地頭に任じられて大きな力をもっていたが、元々、源平合戦時には木曾義仲の軍に加わり源頼朝と対立したり、後鳥羽上皇とも結びつきが深かったりした人物でもあった。

本単元では、幕府の御家人でありながら、上皇に対する忠義も捨て去りがたい重忠が、承久の乱に際して思い悩んだ末の決断を、中心課題として追究する。この際、複雑な立場にあった重忠が、承久の乱において、幕府方と上皇方のどちらにつくべきか決断する場面をロールプレイングにまとめるシミュレーション学習を行う。これによって、重忠の思い悩む決断を、切実感をもって考えることができる。また、決断場面に登場する様々な人物の意見や考えを生かしながらロールプレイングの台本をまとめ上げる。これによって、望ましい解決策を模索しながら、自分とは異なる考え方を理解することができる。

さらに、ロールプレイングの後、グループで練り上げた案を実際の重忠の決断と比較・検討することによって、その時代における共生の難しさや時代の制約をとらえることができる。また、領民のことを思い、上皇への忠義を貫き通した重忠の生き方を学び、重忠の決断や行動を評価することを通して、自分の生き方を見つめ直す契機とすることができる。

4 目標

承久の乱の結果、鎌倉幕府の支配が西日本にまで広がっていく様子をとらえるとともに、武家社会の移り変わりにおける承久の乱の意義を理解することができる。
(知識・理解)

承久の乱における山田重忠の決断場面を表したロールプレイングを基に、対立する争点とその根拠を明らかにすることができる。
(思考・判断)

山田重忠の決断を、生き方という観点から評価する活動を通して、自分の生き方を見つめ直すことができる。
(関心・意欲・態度)

5 指導計画（6時間完了）

主な学習活動	場面	指導上の留意点
<p>〔第1・2時〕</p> <p>学区に隣接する誓願寺（熱田区旗屋）が、源頼朝の生誕地と伝えられていることを知り、単元の学習内容への関心を高める。</p> <p>頼朝が幕府を開いたころ、尾張を支配していた武士である山田重忠について知る。 頼朝が成立させた鎌倉幕府のしくみや幕府成立の経緯について調べる。 当時の尾張の様子を調べる。 山田重忠の生い立ちや人物像などについて調べる。</p>	とらえる	<ul style="list-style-type: none"> 源頼朝の生誕地と伝えられている誓願寺を紹介し、これから学習する鎌倉時代を身近なものとしてとらえさせる。 幕府のしくみについて、守護や地頭など、地方における幕府の支配体制を中心につかませる。 資料を基に、尾張に多くの寺院を創建するほど財力があり、心優しく地域の人々からの信頼が厚かったという重忠の人物像に触れ、地頭のイメージとの違いを感じさせる。
<p>〔第3時〕</p> <p>平安時代末期に頼朝と対立する立場にあった山田重忠が、地頭の地位につくことができた理由を考える。</p> <p>地頭の立場にあった山田重忠が、後鳥羽上皇による倒幕の命を受け、上皇側と幕府側のどちらにつく決断を下したのかを予想し発表する。</p>	考える	<ul style="list-style-type: none"> 頼朝と対立した武士が地頭につくことができた理由を考えさせることを通じて、幕府勢力が尾張など西日本には強く及んでいなかったことをつかませる。 当時の尾張の勢力図（荘園分布図）や、幕府内の政権争いを示す文献資料を基に、重忠が上皇側と幕府側のどちらについたのか、考えの根拠を明らかにさせる。 上皇側 幕府側 静観・和平
<p>〔第4時〕</p> <p>決断場面の様子を小グループで相談しながら考え、ロールプレイングの台本にまとめる。</p>	認め合う	<ul style="list-style-type: none"> 小グループをつくり、登場人物の異なる考えを生かして台本を作るようにさせる。 <登場人物> 山田重忠 家臣1・2 上皇の使者 幕府の使者
<p>〔第5時〕 本時</p> <p>決断場面についてのロールプレイングを基に、学習課題について話し合う。 ロールプレイングを発表する。 各グループが発表した決断の根拠を整理する。 重忠が決断に際して重んじた事からは何だったのかを明らかにする。</p>	認め合う	<ul style="list-style-type: none"> 見ている生徒には、各グループの発表の根拠を書き取らせる。 ロールプレイングの中で出された根拠を発表させ、類似するものをまとめていく。 整理したそれぞれの根拠の中で、有力なものを絞り込むことによって、重忠が決断に際して重んじた事からを明らかにする。
<p>〔第6時〕</p> <p>山田重忠の決断や行動を評価する。 実際の重忠の決断と、戦いの結末について知るとともに、承久の乱後の鎌倉幕府の支配の広がりとらえ、承久の乱の意義について考える。 「重忠の行動を支持するか？」について考え、話し合うことを通じて山田重忠を評価する。</p> <p>重忠の生き方の評価できる点について、根拠を明らかにしながら自分の考えをまとめる。</p>	問い直す	<ul style="list-style-type: none"> 承久の乱での重忠の奮闘の様子や壮絶な最期を知るとともに、この戦いの結果によって、幕府支配が西日本にまで広まっていったことをとらえさせる。 重忠の行動に対する自分の立場をはっきりさせる。 支持する 支持しない 朝廷側の歴史書『沙石集』において重忠が英雄視されている理由を考えさせる。 重忠の半生について各自がまとめたプリントを確認させる。 重忠の考え方や彼が大切にしてきたものは何かを、重忠の半生からつかませる。

予想される生徒の意識

学習内容と私たちのかかわり

頼朝は私たちの住む町のすぐ近くで生まれたのかもしれない。
尾張で生まれたとしたら、なぜ鎌倉に幕府を開いたのだろう。
尾張は一体だれが支配していたのだろう。

山田重忠に関する調査活動

重忠が任じられた地頭とは、どんな立場、どんな役目を与えられた武士だったのだろう。

重忠は心優しく民衆の信頼の厚かった人物だったのだ。
尾張に多くの寺院を創建するほどの財力があったのだ。
どんな血筋、どんな生い立ちの人物なのだろう。

- ・ 源氏の血をひく人物なのだ。
- ・ 宇治川の戦いでは義仲軍に属し、頼朝と戦ったのだ。

鎌倉時代における公武二重支配のとりえ

頼朝と対立した義仲や義経は頼朝に倒されたのに、重忠はどうして地頭の地位につけたのだろう。

- ・ 上皇の信頼が厚い人物だったのかな。
- ・ 他に地頭を任せる家臣がいなかったのかな。
- ・ 尾張は上皇の力が強くて、鎌倉幕府の勢力が十分には及んでいなかったのだ。

決断場面での行動予想

<上皇側について>

- ・ 尾張には、院の荘園が多いから、上皇側についてだろう。
- ・ 上皇の命令に背くことは、朝敵になってしまう。

<幕府側について>

- ・ 御恩と奉公の関係があるから幕府に従っただろう。
- ・ 源氏の流れをくむ者として、幕府側についてだろう。

<静観・和平>

- ・ どちらの側にもつくことができなかったのだろう。
- ・ 様子を見て、有利な方につこうとするのではないか。

ロールプレイングの台本づくり

考えが違っているけど、どちらが良いか相談しよう。
納得できるところを探して結論をまとめていこう。

ロールプレイングに対する意見交換

決断を迫られた重忠の苦悩がよく伝わってきた。また、決断の根拠も納得できる。

地域を大切にしようとする重忠の人柄が表れていたし、当時の時代背景も踏まえられていたが、自分には納得できない。

重忠の行動や決断についての評価

鎌倉幕府の勢力が西日本にまで大きく広がる契機となったという点で、承久の乱は歴史的に大きな意味をもつ戦いだ。

不利な状況下でありながら、命をかけて上皇に忠誠を尽くした生き方が、武士の理想として評価されたのだろう。

もし幕府側について敗れていたとしたら、余計に立場がないだろう。

敗れる側についてたことで多くのものを失ってしまった。

重忠の生き方についての評価

最後まで上皇への忠義を貫いたところはすごいと思う。

仲間を弔う寺をつくるやさしい人柄を感じる。

領民や家臣のことを考えて決断を下したところは評価できる。

鎌倉幕府を成立させた源頼朝は、私たちの住んでいる町のすぐ近くで生まれたのかもしれない。

頼朝の代わりに尾張を支配していた山田重忠とはどんな人物なのだろう

山田重忠は、義仲や義経と同じように頼朝と対立していたのに、どうして地頭につくことができたのだろう

承久の乱で、地頭の立場にあった山田重忠は、上皇側と幕府側のどちらについて戦ったのだろう

最終的に決断するまでには、相当な苦悩があったのだろう

実際の重忠は、上皇側について戦ったのだ。多くの武士の命と引き替えに、鎌倉幕府は支配を大きく広げていったのだ。

自分の気持ちや考えだけではどうにもならないことがあり、平和的に解決方法を探るといことは難しい時代だったのだ。

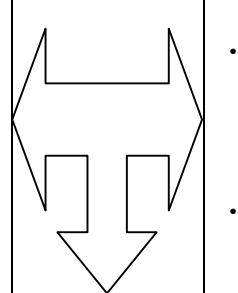
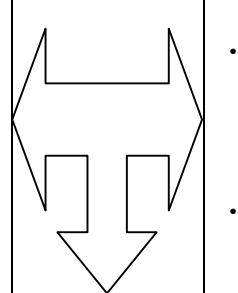
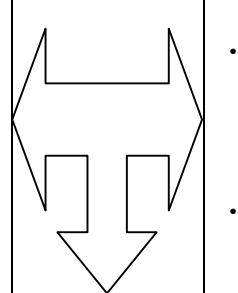
時代の移り変わりの中で起こった承久の乱では、武士たちはどのように行動すればよかったのだろうか？

6 本時の指導（5 / 6時）

- (1) 目標 承久の乱における山田重忠の決断場面を表したロールプレイングを基に，
 (2) 学習過程

時間配分	学 習 活 動	教 師 の 活 動
30分	<p>1 グループで考えたロールプレイングの内容を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 学習課題「山田重忠は承久の乱で， 上皇側と幕府側のどちらにつく決断を下したのだろうか？」 </div> <p>(1) グループごとに，役割分担と発表内容を確認する。</p> <p>(2) グループごとに，学習課題に対する考えをまとめたロールプレイングを発表する。</p> <p style="padding-left: 20px;">上皇側について戦う 幕府側について戦う どちらにもつかず戦わない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までに作成した台本をもとに，段取りの確認をさせる。 ・ 結末が同じようなグループごとにまとめて発表させる。 ・ 発表の際には，だれがどのような立場や役割を演じているのか，見ている人に分かるように発表させる。 ・ 見ている生徒には，各グループが学習課題に対してどのような考えをもっているのか，また，それはどのような根拠からか，ロールプレイングから分かったことのメモを取らせる。
20分	<p>2 各グループのロールプレイングを踏まえ，学習課題についての話し合いを行う。</p> <p>(1) 各グループのロールプレイングの中で出された根拠を発表する。</p> <p>(2) 板書された根拠を整理する。</p> <p>(3) 重忠が決断に際して重んじた事からは何だったのかを明らかにする。</p> <p>(4) 重忠が決断に際して重んじた事方を踏まえて，学習課題についての自分の考えを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表された内容を立場ごとに板書する。 ・ 発表された根拠の中で，類似したものを見つけさせることで，根拠を整理する。 ・ 上皇側，幕府側につく根拠として，最も有力なものを絞り込むことで，決断に際して重んじた事方を明らかにする。 <li style="padding-left: 20px;">武士としての名誉，誇り 今までの恩 土地を守る ・ それぞれの考えについて，受け入れられるところと，受け入れられないところを自分なりに考えさせ，次時につなげる。

対立する争点とその根拠を明らかにすることができる。

予想される生徒の意識	評価場面			
<p>1 グループで考えたロールプレイングの内容を発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><上皇側について戦うとする考えの根拠> 尾張地域一帯は院の荘園が多く、尾張の武士は上皇側についているから。 上皇に逆らえば、朝敵となり、歴史に汚名を残すことになるから。 かつて頼朝と戦っており、幕府は嫌な存在となっているから。 幕府の政治は北条氏の手で動かされており、とても従えないから。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><幕府側について戦うとする考えの根拠> 地頭に任命してもらった恩があり、北条政子の説得が強いから。 頼朝に不満があったとしても、同じ武士として裏切ることにはできないから。 幕府側の方が強そうで、たくさんの武士が味方につきそうだから。 上皇側について勝ったとしても、高い地位が手に入るとは限らないから。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><どちらにもつかず戦わないとする考えの根拠> 上皇側にも幕府側にもかかわりはあり、どちらにつくこともできないから。 無意味な争いに尾張の民を巻き込みたくないから。 戦況を分析して勝ちそうな側についた方が得策だから。 戦いの後のことを考えるとどちらにつくと有利になるか分からないから。</p> </div>	<p>評価場面 1</p>			
<p>2 各グループのロールプレイングを踏まえ、学習課題についての話し合いを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> <p>< 考えの対立 ></p> </div> <p style="text-align: center;">上皇側，幕府側につく根拠として，絞り込まれた有力な根拠</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p>〔上皇側につく方を望む〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで自分や家臣の土地を守ってこられたのは，土地を上皇領に寄進したからだ。守ってもらった恩があり，裏切ることにはできない。 ・ 朝敵として歴史に汚名を残すことはできない。 </td> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">  </td> <td style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px; vertical-align: top;"> <p>〔幕府側につく方を望む〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対立し，冷遇されたとはいえ，地頭に任命してもらった恩がある。裏切ることにはできない。 ・ 武家と公家の戦いでは結果は見えている。土地や命を守るには勝算の高い方につかねばならない。 </td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">絞り込まれた根拠をもとに，重忠の決断について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">重忠が決断に際して重んじた事からは，「武士としての名誉，誇り」や「恩」，「土地を守る」ことなのかな。</p> </div>	<p>〔上皇側につく方を望む〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで自分や家臣の土地を守ってこられたのは，土地を上皇領に寄進したからだ。守ってもらった恩があり，裏切ることにはできない。 ・ 朝敵として歴史に汚名を残すことはできない。 		<p>〔幕府側につく方を望む〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対立し，冷遇されたとはいえ，地頭に任命してもらった恩がある。裏切ることにはできない。 ・ 武家と公家の戦いでは結果は見えている。土地や命を守るには勝算の高い方につかねばならない。 	<p>評価場面 2</p>
<p>〔上皇側につく方を望む〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで自分や家臣の土地を守ってこられたのは，土地を上皇領に寄進したからだ。守ってもらった恩があり，裏切ることにはできない。 ・ 朝敵として歴史に汚名を残すことはできない。 		<p>〔幕府側につく方を望む〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対立し，冷遇されたとはいえ，地頭に任命してもらった恩がある。裏切ることにはできない。 ・ 武家と公家の戦いでは結果は見えている。土地や命を守るには勝算の高い方につかねばならない。 		

(3) 評価の観点と方法

評価の観点	評価の場面と方法	学習活動における評価規準
技能 ・ 表現	【場面1】 プリント への記述や 発言内容か ら分析	承久の乱における山田重忠の決断場面をロールプレイングで発表するとともに、他のグループの発表で分かったことをプリントにまとめることができる。
思考 ・ 判断	【場面2】 プリント への記述や 発言内容か ら分析	各グループのロールプレイングの内容について、考えの根拠を整理しながら、重忠が決断に際して重んじた事がらを明らかにすることができる。

7 資料

(1) 承久の乱で活躍した山田重忠

重忠は、後鳥羽上皇の行った法勝寺九重塔供養に、山田荘やまだのしょう（現在の北区上飯田付近）などの荘官として参加している。1221（承久3）年、後鳥羽上皇が倒幕の兵を挙げるとこれに加わり、重忠は一族・郎党を率いて木曾川の墨侯の守りについた。幕府の大軍の前に上皇側はなすすべもなく敗走したが、重忠は最後まで戦場にとどまって勇敢に戦った。その後、幕府軍が京に迫ると、重忠は瀬田を守る大将として、瀬田と宇治で防戦に努めた。しかし、ここでも上皇軍は敗れた。重忠は敗戦の報告のために上皇のもとに赴いたが、上皇は彼が門内に入るのを冷たく拒んだ。上皇に見捨てられたと判断した重忠は、嵯峨野まで落ちていったが、そこに幕府方の追手が迫り、自殺したのである。乱の後、上皇方についた尾張の守護、小野盛綱は処罰され、山田氏も山田荘を追われた。

(2) 山田重忠にかかわりのある長母寺・成願寺

宇治川の戦いで頼朝軍に敗れた後、重忠は春日井郡山田荘や皇室領狩津荘かりつのしょう（現在の東区矢田町付近）に多くの寺院を建てた。北区の成願寺は、平氏との戦いで討ち死にした一族の霊を慰めるために重忠が再建したといわれている寺院で、山田重忠夫妻像や山田氏系図が伝わっている。また、東区の長母寺・守山区の大永寺（長夫寺）と長慶寺は、重忠がそれぞれ父母・兄の菩提を弔うために創建したといわれている。当時の禅僧無住が長母寺で著した『沙石集』しゃせきしゅうには、心優しい重忠の姿が描かれている。現在では大永寺や成願寺は衰微しているが、かつては大伽藍を誇っていた寺院である。

1 単 元 明治維新

2 単元について

明治政府は、日本を早急に近代国家へ変革する必要性に迫られていた。このため、廃藩置県や四民平等などの国内制度の改革、また、殖産興業や徴兵令をはじめとする富国強兵に向けての諸改革を次々と推し進めていった。

本単元では、黒川治愿と新木津用水を取り上げ、諸改革によって日本が急速に近代国家の基礎を整えることができた一方で、国民に様々な負担がかかったことを理解させるとともに、そのような中でも、人々がよりよい社会を目指して努力を続けていった姿をとらえさせたい。

3 本単元で扱う教材

(1) 教 材 くろかわはるよし しんこつつ 黒川治愿と新木津用水

(2) 教材の意義

1876年、干害に苦しむ尾張東部丘陵地帯の新木津用水下流の村から、用水改修計画が県に提出されたが、莫大な費用がかかるため、すぐには県の許可は得られなかった。同年、県より改修を命じられた黒川治愿は、堀川と新木津用水を結び、堀川を浄化するとともに、用水を拡幅して船を通す計画を立てた。しかし、用水の上流と下流の村で、利益や負担の格差があり、なかなか人々の納得が得られなかった。治愿は、上流と下流の村の説得に粘り強く取り組み、1884年によろやく改修工事を完成させ、両地域の発展に寄与した。

本単元では、当時の社会情勢をとらえた後、生徒が上流と下流の村の対立の解決を考える模擬農談会を設定し、それぞれの立場に分かれて討論を行う。これによって、生徒は上流と下流の村の人々の考えを十分に理解し、切実感をもって問題の解決に取り組むことができる。また、上流と下流の村に見られる利益や負担の格差を踏まえて、望ましい解決方法を考えることにより、対立する立場の中で生徒の考えをゆさぶることができる。

さらに、模擬農談会の後、用水改修に力を尽くした治愿の業績を評価することによって、治愿の先見性をとらえることができるとともに、治愿の生き方を自分の生き方に生かそうとする態度を育てることができる。

4 目 標

明治政府が行った近代化政策の内容とそのねらいを理解するとともに、それらが社会に与えた影響をとらえることができる。 (知識・理解)

公共事業の制度が十分に整っていない明治初期において、新木津用水改修の問題を解決するためのよりよい方法を考えることができる。 (思考・判断)

黒川治愿の業績からその先見性をとらえるとともに、治愿の生き方を自分の生き方に生かそうとする態度を身に付けることができる。 (関心・意欲・態度)

5 指導計画（6時間完了）

主な学習活動	場面	指導上の留意点
<p>〔第1時〕 新田開発が進んだ尾張東部丘陵地帯においても水問題に悩まされてきたことを、尾張東部丘陵地帯に伝わる「ひえだんご」の歌などからとらえる。 川の洪水により用水が使えなくなることがある。 開墾により水不足に悩んでいる地域がある。 尾張東部丘陵地帯における水問題を解決するために出された新木津用水拡幅案について、意見が対立したことをつかむ。</p>	<p>と ら え る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の治水事業をきっかけとして、尾張の農業が発展したことをとらえさせる。 尾張東部丘陵地帯に伝わる「ひえだんご」の歌などから、水不足に苦しんだ人々の生活の様子や、人々が抱えていた問題をとらえさせる。 下流の村から出された新木津用水拡幅案に対し、上流の村が反対し、意見が対立したことを明らかにさせる。
<p>〔第2・3時〕 明治時代の諸改革に伴う民衆の生活の変化を踏まえながら、尾張東部丘陵地帯の人々が置かれていた当時の状況や、抱えていた課題を調べる。 地租改正や徴兵令による負担の増加 幕藩体制の崩壊と地方政治のしくみ 新木津用水拡幅案が出るまでの経緯 尾張東部丘陵地帯における、新木津用水拡幅案の是非や水問題の解決策について、自分の考えをまとめる。</p>	<p>考 え る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 明治維新に伴う様々な改革により、尾張東部丘陵地帯の人々も大きな負担が課せられていたことをつかませる。 新木津用水拡幅案が出るまでに、人々が直面した具体的な問題を調べさせる。 新木津用水拡幅案について、意見が対立した理由をつかませる。 立場を明確にした上で、拡幅案の是非や、具体的な解決策についてまとめさせる。
<p>〔第4時〕 拡幅案に対して、上流と下流の村の立場に分かれてグループを作り、模擬農談会に向けて意見を検討する。</p>	<p>認 め 合 う</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの立場に立って、意見の根拠が明確に相手に伝えられるように、グループで検討させる。
<p>〔第5時〕 模擬農談会を設定し、上流と下流の村の考えの根拠に耳を傾けながら、問題を焦点化する。 上流の村 用水拡幅のために土地が奪われることは困る。 下流の村 水不足解消のため用水の幅を広げてほしい。 上流と下流の村の立場の生徒が、「治水が行われ開墾が進めば、産業が発達し、よりよい社会を築くことができる」という考えに立って意見を認め合い、望ましい解決策をまとめる。</p>	<p>認 め 合 う</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な方法の細かな違いについては重視せず、上流と下流の村の立場による意見の違いが浮き彫りになるようにする。 それぞれのメリット・デメリットを明らかにしながら、双方の考えの根拠をつかませる。 新木津用水の拡幅案の実現が簡単には進まなかった経緯を踏まえ、当時の社会情勢において、最も望ましい方法は何かを考え、拡幅案の実現方法をまとめさせる。
<p>〔第6時〕 本時 新木津用水改修工事を推進した黒川治愿の先見性をとらえる。 新しい地方政治のしくみの中で、尾張東部丘陵地帯の開発を進めた。 新木津用水と堀川をつなげることで、いろいろな改革を同時に進めた。 黒川治愿の先見性を基に、よりよい社会を築いていく上で、どのようなことが自分の生き方に生かしていけるか考える。</p>	<p>問 い 直 す</p>	<ul style="list-style-type: none"> 治愿の案は、洪水・水不足のみならず、堀川の汚染や水運などの問題を解決する見通しがあったことをとらえさせる。 新木津用水改修工事が簡単に進まなかった当時の制約とともに、治愿の業績の先見性をとらえさせる。 治愿の案の先見性や優れていた点を振り返りながら、これからの自分の生き方に生かそうとする態度を育てる。

予 想 さ れ る 生 徒 の 意 識

治水・水問題のとらえ

今まで多くの治水事業が行われてきたのだな。
江戸時代の治水事業で尾張の農業が発展したのだ。
尾張東部丘陵地帯の人々は水問題でずっと悩んできたのだ。
「ひえだんご」の歌は人々の生活の様子をよく表しているな。

新木津用水拡幅案をめぐる意見の対立のとらえ

新木津用水拡幅案とはどのようなものだったのだろう。
なぜ水問題の解決案に反対意見が出たのだろう。
尾張東部丘陵地帯の人々が抱えていた課題に関する調査活動
強引な地租の取立ては人々にとって苦痛だったに違いない。
(地租改正反対一揆)
徴兵令による人不足は、農業を営んでいた人々にとって大きな問題だったのだろう。(徴兵令反対一揆)

地租改正や徴兵令は経済的・物理的に人々を圧迫していた。
新政府の政策により今までよりも負担が増したのだな。
新木津用水拡幅案は、下流の村の人々にとっては切実な願いだったに違いない。

新木津用水拡幅案は、上流の村の人々にとっては受け入れがたかったのだ。

新木津用水拡幅案についての模索と水問題の解決策

今まで調べたことを基にして、新木津用水拡幅案の是非を考えてみよう。

グループでの話し合い

友達の考えを取り入れながら、新木津用水拡幅案の是非や水問題の解決策を考えてみよう。

模擬農談会を通じた問題の焦点化

< 上流の村の人々 >

- ・ 用水の拡幅で土地を失うことは避けたい。
- ・ 土地を失えば生活ができない。
失う土地は広く、地価に換算すると大きなものになる。
- ・ 補償金は一時的なもので恒久的なものではない。

< 下流の村の人々 >

- ・ 負担増、水不足の解決は死活問題。この苦しい現実を理解してほしい。
- ・ 同じ農業を営む者なのだから、苦しみは理解できるはず。
- ・ 補償金で納得してもらえないだろうか。

水問題解決のための拡幅案実現の模索

人や立場によって考えが違うから一つにまとめるのは難しい。
お互いが納得できるように考えよう。
どうすれば拡幅案を実現させることができるだろうか。

黒川治愿の業績

新しい地方政治のしくみの中で、尾張東部丘陵地帯の開発を進めた人がいたのだ。

治愿の案は、洪水・水不足のみならず、堀川の汚染や水運などの問題を解決する見通しがあったのだ。

地域全体の人々の生活を結び付けて考えていたのだな。

自分の生き方の見つめ直し

治愿は人々のために困難な事業に粘り強く取り組んだのだな。
人々の利害を調整するために広い視野から取り組んだのだな。
様々な意見や考えをつなげることが大切なのだな。

尾張でも、古くから水問題の解決に向けた取り組みがなされていたのだな。

水問題の解決案は歓迎すべきものなのに、なぜ反対意見が出たのだろう。

新政府の政策で尾張の人の負担が増す中で、水問題は深刻だったのだろう。

水問題の解決のために、新木津用水を拡幅することは是非か、一体どちらなのだろう。

下流の村も上流の村も、人々は切実な悩みを抱えながら暮らしているのだから、簡単には解決できそうにないな。

治愿は広く地域全体のことを考え、いろいろな方法や事業を結び付けることで解決を図ろうとしたのだな。

問題の解決には、広い視野に立って様々な意見をつなげて解決していくことが大切なのだな。

人々はいろいろな地域にまたがって生じる水の問題に対し、どのように意見を調整し解決すればよかったのだろうか？

6 本時の指導（6 / 6時）

- (1) 目 標 黒川治愿の業績における先見性をとらえるとともに，自分の生き方に生か
 (2) 学習過程

時間 配分	学 習 活 動	教 師 の 活 動
5分	1 前時の学習内容を確認する。 (1) 前時の模擬農談会における対立点を確認する。 <上流の村> <下流の村> 土地の減少 水の確保 (2) 上流と下流の双方が豊かになる新たな解決策について確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬農談会で出た意見を，事前に画用紙にまとめておき，生徒の発言に合わせてホワイトボードに掲示する。 ・ 前時の学習内容を思い出させ，拡幅案が実現したのかどうかへの関心をもたせる。
12分	2 新木津用水拡幅をめぐる問題のてん末と，黒川治愿の業績をとらえる。 (1) スライドを見ながら，治愿が新木津用水改修工事のために取り組んだことをつかむ。 (2) 現在の名古屋市内に治愿にちなんで名付けられた川や地名があることをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーションソフトを活用し，治愿の業績を視覚的にとらえさせる。 ・ 黒川という地名に聞き覚えがないか尋ね，新木津用水が北区の黒川までつながっていることを地図で確認させる。
25分	3 黒川治愿の業績の先見性をとらえる。 (1) 治愿の業績を発表する。 (2) 治愿の業績のすばらしいところは何かを考え，話し合う。 アイデア（水運・環境） 粘り強く取り組んだこと (3) 尾張東部丘陵地帯の水問題を解決したことで，治愿がつないだものを探る。 上流と下流の村の人々の思い 農業用水と水運の役割 開発と環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 治愿の業績の内容を確認させる。 ・ 自分たちの模擬農談会では思いつかなかったことは何か，という視点で問いかける。 ・ 生徒の意見で予想されるものを画用紙にまとめておき，生徒の発言に合わせてホワイトボードに掲示する。 ・ プレゼンテーションの内容を想起させながら，新木津用水と堀川をつなぐことによる影響や成果を考えさせる。
8分	4 地域をまたがって生じる問題を解決するために大切なことを考える。 (1) 黒川が堀川と名称を変えながら，本校学区を流れていることをつかむ。 (2) 治愿の業績を踏まえて，地域をまたがって生じる問題を解決するために大切なことを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新木津用水～黒川～堀川～学区がつながっていることを地図で確認させる。 ・ 明治時代の業績が，現代の自分たちの生活や地域の発展に，大いにかかわっていることをとらえさせる。 ・ 広い視野に立ち，様々な意見や考えをつなげて解決を図ることの大切さに気付かせる。

そうとする態度を身に付けることができる。

予想される生徒の意識	評価場面						
<p>1 前時の学習内容を確認する。</p> <div data-bbox="204 483 1310 616" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>模擬農談会における対立</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; border: none;">上流の村</td> <td style="width: 45%; border: none;">用水の拡幅で土地を奪われるのは困る</td> <td rowspan="2" style="width: 10%; border: none; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="2" style="width: 30%; border: none;">どのように解決すればよいのだろうか？</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">下流の村</td> <td style="border: none;">用水を拡幅して水不足を解消したい</td> </tr> </table> </div> <p>2 新木津用水拡幅をめぐる問題のてん末と、黒川治愿の業績をとらえる。</p> <div data-bbox="204 689 1310 857" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><新木津用水拡幅問題に対する黒川治愿の業績></p> <p>堀川と新木津用水を結び、木曾川のきれいな水を堀川に導入するとともに、用水路を3倍に拡幅して、船を通す計画を立てる。 上流と下流の村に対して粘り強く説得を働きかける。</p> </div> <div data-bbox="715 864 799 902" style="text-align: center;">↓</div> <div data-bbox="204 909 1310 1032" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><黒川治愿の業績と現在とのかかわり></p> <p>名古屋市北区にある黒川という地名は治愿の業績にちなんでつけられたのだ。 尾張東部丘陵地帯の水問題は現在の名古屋市にも深くかかわりがあったのだ。</p> </div>	上流の村	用水の拡幅で土地を奪われるのは困る	}	どのように解決すればよいのだろうか？	下流の村	用水を拡幅して水不足を解消したい	評価場面 1
上流の村	用水の拡幅で土地を奪われるのは困る	}			どのように解決すればよいのだろうか？		
下流の村	用水を拡幅して水不足を解消したい						
<p>3 黒川治愿の業績の先見性をとらえる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div data-bbox="220 1115 408 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">上下流の両地域の発展を考えている</div> <div data-bbox="440 1115 628 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">水利だけでなく水運にも利用している</div> <div data-bbox="660 1115 849 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">開発とともに川の汚染を防ごうとしている</div> <div data-bbox="880 1115 1069 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">新木津用水と下流の河川とを結んでいる</div> <div data-bbox="1101 1115 1289 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">解決に向けて粘り強く働きかけている</div> </div> <div data-bbox="204 1301 1310 1429" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;"><黒川治愿の業績のすばらしいところ></p> <p>粘り強く働きかけることによって、困難であった改修工事を実現させたのだ。 新木津用水と堀川をつなぐことによって、地域の発展に貢献したのだ。</p> </div> <div data-bbox="715 1435 799 1473" style="text-align: center;">↓</div> <div data-bbox="308 1473 1249 1675" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;"><黒川治愿が水問題解決とともにつなげたもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・用水の確保 「ひえだんご」の村が、「尾張米」の産地へ ・水運 産業の発展（上流と下流の両地域の生活の向上） ・環境 堀川の浄化 ・上流と下流の人々の思い 双方の幸せ </div>	評価場面 2						
<p>4 地域をまたがって生じる問題を解決するために大切なことを考える。</p> <div data-bbox="204 1742 1310 1870" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><黒川治愿の業績と私たちとのつながり></p> <p>新木津用水～黒川～堀川～本校学区がすべて一本の水路でつながっているぞ。 黒川治愿の125年前の業績は、現在の私たちの生活にもつながっていたのだ。</p> </div> <div data-bbox="715 1877 799 1915" style="text-align: center;">↓</div> <div data-bbox="204 1921 1310 2011" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>地域をまたがって生じる問題に対しては、黒川治愿のように、様々な考えや方法をつなげて解決を図ることが有効なのだろう。</p> </div>							

(3) 評価の観点と方法

評価の観点	評価の場面と方法	学習活動における評価規準
知識・理解	【場面1】 プリントへの記述や発言内容から分析	尾張東部丘陵地帯の水問題解決に向けた黒川治愿の業績をとらえ、いろいろな考えや方法をつなげているところに先見性をとらえることができる。
関心・意欲・態度	【場面2】 プリントへの記述や発言内容から分析	黒川治愿の業績と自分たちの学区とのつながりを踏まえ、地域をまたがって生じる問題に対して、様々な考えや方法をつなげて解決策を探ろうとする態度をもつことができる。

7 資料

尾張東部丘陵地帯における新木津用水改修工事のてん末

1648年	木曾川を水源とする木津用水を開削する。
1664年	新木津用水を開削する。用水の完成とともに集団移住が進み、開墾地が増加する。その結果、幅3.6mの用水では、下流の村を潤すには不十分となり、干害のたびに米がほとんど収穫できなくなる。
1869年	水不足に悩む用水下流の村から、新木津用水を拡幅し、新しく500町歩を開墾する計画がもちあがる。
1872年	学制が発布される。
1873年	徴兵令が出され、農村から人手が奪われる。 地租改正が行われ、所有地の価格を基に地租を納めることになる。
1876年	測量した結果を基に、下流の村が新木津用水改修計画を県に提出するが、莫大な費用がかかるため、県の許可は得られず。 春日井郡で地租改正反対一揆(1回目)がおこる。 黒川治愿が愛知県土木係に任じられ(後に土木係長)、水の汚れの目立ってきた堀川を改修するように命じられる。
1877年	治愿が堀川と新木津用水を結び、木曾川のきれいな水を堀川に導入するとともに、用水路を3倍に拡幅して、船を通す計画を立てる。 上流の村 水路の拡大によって土地が奪われるため反対 下流の村 工事のために7万人の人夫を出すことで合意
1878年	木曾川の洪水により取水口の井堰が流出し、田植えができないところが続出する。
1879年	春日井郡で地租改正反対一揆(2回目)が起こる。
1882年	下流の村が工事費用を負担する提案がなされるが合意に至らない。
1884年	治愿の説得が功を奏し、八田川合流地点まで幅11mの改修工事が完成する。